

# 災害時要援護者避難支援制度の取組事例

## 1 支援組織概要

組織名：新作第一町内会 (高津区) 世帯数：約 1,700 世帯

## 2 取組概要

平常時から、町内会と民生委員が協力して要援護者の把握と見守りを行っており、地域全体で支える体制の構築に向けて取り組んでいます。支援者については、町内会内のブロック毎に選出しているブロック長と、近所の方を中心をお願いしています。本取組を多くの方に理解していただくことが大切だと考えており、役員会をはじめ、避難所運営会議や町内会のイベントの機会を捉え、活動内容の説明や地域の要援護者の情報を共有しています。

## 3 取組経過等

当町会は、崖地が多い地区であり、住民の防災意識が高く、従来から防災訓練の開催、町内会独自の備蓄倉庫の整備や、資器材及び物資の確保を進め、災害時の地域対応力を向上させてきました。

平成19年に市の「災害時要援護者避難支援制度」が発足した際には、地域における支援の輪を自分たちで確立しようという町内会長の熱意により、町内会として積極的に行政から提供される名簿を活用することとなりました。

取組の当初から、地域の事情をよく知る民生委員児童委員もともに活動してもらうようにし、民生委員活動と町内会活動の両面から、日常的に要援護者を見守る体制を目指しています。

## 4 取組詳細

1 登録者数・・・ 27名

2 支援者・・・ 要援護者1名当たり、平均2～3人程度

\* 地域を11に分けた各ブロック長と、要援護者の近隣にお住まいの方を1単位として、支援をお願いしています。

\* 要援護者の近隣にお住まいの方には、初回訪問後に民生委員児童委員から支援活動のお願いに伺っています。

### 3 取組方法

#### <初回訪問>

- ・市からの名簿受領後、町会長又は副会長と民生委員児童委員の2～3人で訪問しています。
- ・訪問に当たっての要援護者との訪問日時の調整は、日頃から地域で活動されている民生委員児童委員をお願いしています。
- ・初回訪問では、できるだけ要援護者の家族を交えて話を聞くようにしており、家族の考え方や在宅時間などの環境も含めて把握し、支援活動の参考としています。
- ・また、介護の状況など身体状況の確認や、避難所までのルート確認、災害への備え等について伝えるようにしています。
- ・担当の民生委員児童委員の連絡先を掲載したカードを作成・配布しており、要援護者の方になにかあった場合の連絡先を把握してもらっています。

- ・「災害時に支援が必要な場合には市職員が来るのではなく、地域での助け合い」「地域の人も被災している場合があり、必ず支援できるわけではない」ことを説明し、制度に対する誤解のないよう丁寧に説明しています。

#### <平常時の対応>

- ・高津区で取り組んでいる防犯パトロール隊の、地区隊でのパトロール活動の機会に、要援護者のお宅に新聞が溜まっていないか等の見守りも併せて行っています。
- ・民生委員児童委員の見守りネットワーク活動の中で、要援護者の様子を確認してもらっています。
- ・各ブロック長は、担当地域の要援護者名簿を保管し、いざというときに速やかに情報を活用できるようにしています。

#### <災害発生時の対応>

- ・支援者から要援護者に電話等で、気象情報や避難に関する情報などを連絡することとしています。
- ・実際に避難が必要な場合には、一時避難場所としている町内会館などに、支援者が協力して避難支援を行うこととしています。

## 5 他団体との連携

#### <民生委員>

- ・初回訪問や見守り活動など、地域とのつながりを生かしてこの制度の取組の中に入れていただいています。

## 6 工夫している点

- ・避難所運営会議などの場を捉えて、ブロック長のみではなく、他の班員も含めて取組を説明し、周知し、町内会全体で見守る意識の醸成に努めています。
- ・敬老のお祝いには、直接、対象者に記念品をお持ちすることにより、身体状況などの確認をする機会とするなど、町内会の行事も積極的に活用しています。
- ・外出時に外から要援護者の自宅の様子を確認するなど、ちょっとした機会にも気にかけて見守りを行うようにしています。
- ・大災害の際には支援側のマンパワーが限られ、要援護者支援も順次行うことが想定されることから、要援護者の方の中で支援する必要度が高い方等の話し合いを行っています。

## 7 取組成果

- ・支援者のみではなく、機会を捉えて町内会活動の中で要援護者支援の取組を行っていることを皆さんにお知らせしていたことから、制度への理解が広がり、地域ぐるみで要援護者への見守りをしようという声が上がっています。
- ・平成27年9月に発生した台風18号に伴う大雨時の避難勧告発令の際には、実際に要援護者の方に電話連絡などで、安否確認や情報提供を行いました。このことで、要援護者の方の安心感につながっています。

## 8 その他

- ・日頃からの付き合いが薄い、マンション等の場合の支援者の確保については今後の課題と考えています。